

書籍仕入れご担当者 様【ジャンル/日本近現代史】

平素より、ご高配を賜り深く御礼申し上げます。

ぜひ、関連コーナーにてご展開いただきますようご案内申し上げます。

FAX: 092-726-9886

# 霊園

新装版

## から見た

# 近代日本

浦辺 登◎著

◆荒俣宏氏／朝日新聞書評(初版時)

本書のおもしろさは墓から墓へと飛び回ること  
とで思いがけない人物同士の関係が次々に明  
らかになる点だろう……。朝鮮で四肢を分断  
され晒しものになった金(玉均)の遺体も密  
かに日本に持ち込まれ、玄洋社の頭山満とア  
ジア主義者の犬養毅の手で青山霊園に墓も作  
られた。こうして墓巡りの主役は玄洋社の中  
心だった福岡勢に目を向けられる。……青山  
霊園を巡っただけでも明治アジア外交史が浮  
かび上がる

定価1900円+税 【6月下旬刊】

四六判・240頁 ISBN978-4-86329-288-8 C0021

### ◆墓碑銘から浮かびあがる日本近代史の裏面に迫る◆

青山霊園、谷中霊園、泉岳寺、寛永寺、木母寺……墓地を散策し思索する。墓碑銘から浮かびあがる人脈と近代史の裏面。  
《玄洋社》をキーワードに読み解き、歴史背景の解釈に新たな視点を示した一冊。

◆目次から◆

- 第一章 朝鮮半島をめぐる外交摩擦  
日清戦争の背景/金玉均の墓所にて
- 第二章 幕末から西南戦争まで  
西南戦争という価値転換
- 第三章 アジアとの関わり  
玄洋社の看板、頭山満
- 第四章 近代化のはざままで  
日露開戦の予言/新興宗教と病気なおし
- 第五章 日本近代化の総仕上げに向けて  
犬養毅、後藤新平の産業立国主義

〈著者の横顔〉浦辺 登(うらべ のぼる)

昭和三一年福岡県生まれ。福岡大学ドイツ語学科在学中から雑誌への投稿を行う。オンライン書店b1k1では「書評の鉄人」の称号を得る。著書に『太宰府天満宮の定遠館』『玄洋社とは何者か』『明治四年久留米藩難事件』『東京の片隅からみた近代日本』などがある。

【FAX: 092-726-9886】

<b>地小出版</b> 流通センター 取扱品 書店・帖合	冊	《新装版》 <b>霊園</b> から見た <b>近代日本</b>	浦辺 登 定価 1900円+税 ISBN978-4-86329-288-8
	冊	<b>東京の片隅からみた近代日本</b>	浦辺 登 ISBN978-4-86329-072-3 定価 2000円+税
	冊	<b>明治四年久留米藩難事件</b>	浦辺 登 ISBN978-4-86329-263-5 定価 2000円+税
	<b>弦書房</b> 〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-43 ELK大名ビル301 TEL:092-726-9885 FAX:092-726-9886		